

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670201062
法人名	社会福祉法人 祥健会
事業所名	グループホーム とうごう苑
訪問調査日	平成 21 年 9 月 3 日
評価確定日	平成 21 年 11 月 11 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4670201062
法人名	社会福祉法人 祥健会
事業所名	グループホーム とうごう苑
所在地	鹿児島県薩摩川内市東郷町斧淵2636番地1 (電話) 0996-21-6551

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成21年9月3日 評価確定日 平成21年11月11日

【情報提供票より】(平成 21年5月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 12 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 15.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	9,000円 (光熱円)	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	280 円
	夕食	300 円	おやつ	83 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	とうごう苑診療所・医療法人松尾病院・社会福祉法人恩賜財団法人済生会川内病院 薩摩郡医師会病院・医療法人瀬口歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは国道267号線沿いにあり、周辺には果樹農園や東郷温泉があり自然環境に恵まれた地域である。近くに系列の診療所や法人の福祉施設・小規模多機能ホームがあり医療面の支援が受けやすく、職員の研修や防災訓練は合同で計画的に行っている。長年地域医療に携わってきた代表者は「利用者が夢を抱き満足を実感できるホーム」を目指し当ホームを開設された。庭の桜、梅、柿など季節感のある木々や生け垣、ゆったりと落ち着ける木造建物などでその思いが伺える。職員は明るい笑顔で接することをモットーとしており、あたたかい雰囲気のホームへは家族は気軽に訪ねている。家族や地域の人が協力的で地域に密着したホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善点はなし。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が評価の意義と目的を理解している。自己評価は1ヶ月の月日をかけながら、全職員ひとり一人が項目にそって自ら振り返り点検し、書き込みを行い、各ユニット毎に管理者や計画作成担当者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催されている。会議では利用者の行事活動、職員の研修、利用者の入居状況、決算報告などホームの状況を詳細に報告している。災害時の地域住民の協力要請は民生委員の働きかけで10名参加があった。ホームから出かける時の道路の見通しを妨げる国道の生け垣の問題はメンバーの協力で解決している。ホームがAEDを設置している説明と地域利用の提示をするなど、会議を通じ活かした取り組みが行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には毎月の便りで定期的な報告をし訪問時や電話で個々に合わせた報告をしている。苦情の申し出については家族との契約時に公的機関の他に第三者委員の説明や面会簿への記入について伝えている。家族は年1回の家族会や運営推進会議、面会時など苦情や意見、要望を言える機会がある。出された意見は職員で話し合い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会は施設加入の前例がなく加入できないが、自治会の年2回の大掃除には職員が参加している。2ヶ所のいきいきサロンには利用者の出身地に応じて参加している。保育園の運動会や小学校の学習発表会にも参加している。地域の人から野菜をもらったり、とうごう苑の夏祭りや大掃除、避難訓練には手伝いを貰うなど地域との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境と、住み慣れた地域の人とのふれあいを大切に、笑顔で接し支援する理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝夕の申し送り時に全員で理念の唱和を行い、意識づけを行っている。職員はお互い「笑顔」「笑顔」と合言葉にしながら、地域の人とふれあう機会を支援したり、その人らしさを大切にする支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会は加入していないが職員は年2回の自治会の掃除には参加している。2ヶ所のいきいきサロンには利用者出身地に応じて毎月参加をし、保育園の運動会、小学校の学習発表会に行っている。地域の人から野菜をもらったり、とうごう苑夏祭りや大掃除、避難訓練時には手伝いをもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員共に自己評価・外部評価を実施する意義や目的を理解している。自己評価は1カ月かけて職員一人ひとりが自己評価し、各ユニットごとでまとめている。前年の外部評価での改善点はなかった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的開催し、利用者の状況、運営の状況、利用者の活動、職員研修など報告し質問や意見をもらっている。避難訓練に地域の方が参加できるようになったり、見通しの悪い国道の生け垣の問題も解決するなど会議での意見をサービス向上に活かしている。		

鹿児島県 グループホームとうごう苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市には毎月医療費助成の届け出に出かけ、福祉サービスの入浴券をもらったり、ボランティアの利用相談を行うなど常に市とは連携を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には1ヶ月に1回「とうごう苑便り」を発行し、モニタリング表、金銭出納帳のコピーを送付している。家族の訪問時には日頃の暮らしの様子や健康状態を伝えている。急な知らせはその都度電話をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には苦情申し出について、公的機関の他、第三者委員の説明、面会簿への記入を伝えている。年1回の家族会、運営推進会議、訪問時などでの機会も設けてあり、出された意見については職員で話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの関係性を理解して、過去1年内の法人内異動はない。ユニット間での移動は運営上行うことはあるが同じ敷地内で、利用者にダメージにならないようユニット間で連携し合いながら対応している。やむなく異動があった場合は十分な説明でスムーズに移行するよう取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は毎月の法人研修に夜勤者以外全員参加している。社会福祉協議会主催、グループホーム協議会主催などの外部研修に参加し、ホーム内で伝達研修を行っている。	○	職員の立場、経験、習熟度など段階に応じて研修の機会を確保するためにも、事業所の年間研修計画を作成されそれぞれの職員が計画的な研修機会を確保できるように希望します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のグループホーム連絡協議会に加入している。3～4ヶ月に1回開催の川薩支部には10名程度の職員が出席して勉強や交流をしておりサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込み相談時点で自宅訪問し顔馴染みになるよう努めている。その後本人・家族に見学してもらい納得してから入居してもらうようにしている。入居後馴染めない人には、利用者家族と相談しながら、面会してもらったり、距離をおいてもらうなど、それぞれに合わせた工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩として尊敬し、野菜の育て方、漬物・団子の作り方、漢字や柿の種類など知識を教えて貰う場面作りを心がけ、一緒に過ごしながらいお互い感謝の言葉が出る関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常生活の中で言葉や表情、行動から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。職員は申し送りの話合いや具体的な記録をすることで情報を共有している。意思疎通が困難な場合は家族から情報もらっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の希望・要望のアセスメントと毎月のモニタリングを参考にしながら、本人、家族、スタッフが意見やアイデアを出し合い利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の申し送りや、毎月のモニタリングで状況を確認し、変化があった場合は随時本人・家族・職員で話し合い新たな介護計画を作成している。変化がなくても、6ヶ月毎に定期的な見直しをしている。		

鹿児島県 グループホームとうごう苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	主治医とは1週間に1回の往診や24時間医療連携できるようにしており、昼間の医療行為は協力医の看護師により支援している。本人家族の状況に応じ通院介助、帰宅支援を行い、緊急時に備えAEDや吸引機を設置し、終末期の看取りなど事業所の多機能性を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医や各専門医は本人・家族の希望を大切にしている。基本的に内科は協力病院で受診している。主治医以外のかかりつけ医の人が5名いる。家族が受診介助したり職員が付き添うこともある。専門医に往診をしてもらう場合もあり、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には重度化や終末期に向けた方針を説明し本人や家族の意向を確認している。状況に応じて随時家族と医療機関、職員で話し合い全員で方針を共有している。今までに4名の看取りを行っており、対応出来る職員教育も行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねる言葉づかいや対応についてはスタッフ会議やミーティングで話し合い、日常業務の中で気がついた時はお互い注意し合っている。管理者は個人記録に具体的な言葉で書くように指導しており、言葉かけや対応にも気付かされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな時間の流れは決めているが、職員の都合を優先しないように利用者の一人ひとりのペースを大切に過ごせるようにしている。庭の散歩も自由に、買い物行きや温泉、外食など希望にそって柔軟に支援している。		

鹿児島県 グループホームとうごう苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の材料(ホームの畑で採れた野菜やおすそわけの野菜)を中心に利用者の要望を聞き献立を作り、買い物や調理を一緒にしている。食事メニューの説明をし、食事時間はテレビを消し、懐かしい歌を流しながら食事を楽しんでもらえるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜以外は毎日入浴の準備がしてある。月・水・金と火・木・土に分けて入浴支援をしているが、体調や希望に応じた柔軟な支援をしている。入浴嫌いな人にはタイミングを見て声かけをし気持ち良く入浴して貰えるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴や出来そうな役割を見つけ声かけを行い、庭の掃除、洗濯たたみ、茶碗洗い、野菜切り、牡丹餅作り、ゴミ箱作りなどしてもらい感謝の言葉を伝えている。外食が一番の楽しみでよくでかけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	苑庭が広く自由に散歩できる。日常的に近隣の散歩や近くの温泉(ゆったり館)に買い物に出かけている。月1回の苑外活動やいきいきサロン、外食など希望にそって支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを実践している。現状では出かける人はいなく落ち着いているが、常に利用者の確認をするようにしている。職員は手分けして探し方の訓練をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署立会いで職員・利用者・地域住民・同法人施設職員が参加して夜間総合避難訓練を行っている。その他職員は同法人施設2か所の火災訓練には参加している。ホーム独自で定期的に避難訓練をしている。台風時は事前の準備をし、地震は過去の経験を活かし備蓄をしている。		

鹿児島県 グループホームとうごう苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士(職員)が献立のアドバイスをしている。状態に合わせた調理方法、食事介助の支援をしながら一人ひとりの食事・水分摂取量を把握している。食事時間外の水分補給、プロテインやお茶ゼリーの補給など摂取量が確保できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下の床の木目が暖かさを感じる。中庭を作り広々と明るい建て方である。廊下やカーテンで直接の光を抑えている。食堂兼居間には一段高い畳の間があり、上がり降りに握り棒を設置し安全の工夫がみられる。広いトイレが居室と居室の間に5か所設置してあり安心して使用できる。たまには中庭で食事したり、ソファーに横になったり、居心地よく過ごせる工夫がしてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洗面台、ベット、空気清浄機、エアコン、タンスの備え付けがあり、自宅から籐の小物入れ・手作りのハンガー掛け・シルバーカー・本・家族写真など一人ひとりが暮らしやすい持ち込み品を活かしながら、居心地良い部屋にしている。		